

業者と市 石綿残存記録隠しか 測定報告の写真抜き取る

堺市北部地域整備事務所(北区)機械室の煙突のアスベスト(石綿)除去工事で、石綿の残存を示す現場写真付きの記録があったのに、市建築課が元請け業者と協議し「内容が報告にふさわしくない」として記録を抜き取った市長宛ての報告書を提出させていたことが分かった。情報公開請求などで事実を把握した市民団体は「都合の悪い情報なので隠蔽したのではないか」と指摘している。

【大島秀利】

堺市建築都市局の窪 報提供ができず、おわ
園伸一局長は26日、「隠 びする」と話した。
蔽の意図はなかった 石綿除去工事は、機
が、結果的に十分な情 械室内部に残っていた
報提供ができず、おわ 煙突(約5㍎)につい
て、2017年2月か
ら工事業者が行った。
石綿測定業者が、除去

工事後の4月15日時点で「煙突内に石綿の取り残しがある」と現場写真付きで報告書(4月21日付)を工事業者に提出していた。

患者団体「中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会」前会長の古川和子さん(堺市在住)が17年末、市に報告書類の開示を求めたところ、ページ番号が途中で欠落したり、現場写真がなかったりするに気付いた。建築課に問いあわせ、元の報告書には石綿関連の写真が約15点あったことなどが分かった。

建築課は「除去を完了したと認識し、煙突を密封した」としている。一方、石綿測定業者は国土交通省の建築物石綿含有建材調査者の資格を持つ業者で「取り残しは間違いのない。全然取れていない」と当日に市職員に伝えたと説明している。「中皮腫・じん肺」のアスベストセンター」の永倉冬史事務局長は「石綿の取り残しの情報は非常に重要で確認が必要だ。記録をしつかり残さない知らずに飛散事故を起こす可能性がある」と警告した。窪園局長は「慎重に対応を検討すべきだった」と話している。同事務所では2016年6月、機械室屋上に突き出た煙突約2・3㍎分を解体する工事が行われた。耐熱材として使用されている石綿が飛散し、隣接する保育園に落下する事故が起きた。